

令和6年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	サクスクリエーション 合同会社	代表者	高橋 清彦	法人・ 事業所 の特徴	小規模多機能の他に居宅介護支援、地域密着型通所介護、訪問介護、障害者相談支援、有料老人ホーム、児童発達支援、放課後等デイサービスの事業所があり、令和3年4月からは定期巡回・随時対応型訪問介護看護のサービスも開始。幼児からお年寄りまで様々な交流に向けて、多機能性ある柔軟な支援をし、利用者の生きる力を広げ生活そのものを支援し、地域との関わりを大切にします。また、施設併設のカフェやアリガト書店など地域の方々にも気軽に利用して頂けるスペースもあり、更に繋がりを広げる取り組みをしている。当事業所は家庭的で落ち着いた雰囲気の中で穏やかに楽しく過ごして頂けるような関りとケアを心がけており「共に明日を生きる」をキーワードに利用者のご自宅での生活を支援しています。地域との交流も積極的に行い、地域に開かれた施設を目指しています。
事業所名	サクス小規模多機能型 居宅介護やすらぎ	管理者	中島 佳太		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	1人	1人	人	3人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き自己評価前の事前研修を実施する。事業所評価実施者の育成を行い評価実施をできる職員を増やす。 運営推進会議の場で委員の皆様にご事業所評価の仕組みについて事前説明しながら進めていく。 施設が地域に貢献できる事として認知症に関する勉強会を実施。運営推進会議の場で地域の方々から意見を聞きながら計画して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価実施前に事前研修を行い評価の目的や記入のポイントを確認してから取り組んだ。 5月の運営推進会議で事業所評価と地域評価の仕組みを説明してフローチャートを使い自己評価から総括表までのスケジュールを説明した。 北部包括支援センターの方々のご協力を頂き、職員向けに認知症サポーター養成講座を開催する事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> どんなスタッフがどういう場で自己評価に取り組んだのか、分かるとAの項目の評価がしやすく全体の評価をする意味が外部の人にも伝わりやすいのではと思います。 事業所自己評価にきちんと取り組んでいる様子がよく分かりました。 自己評価でもおおむねできているになっているので、意識的に取り組まれたのだと思います。 本人を支えるための関係づくりの配慮についてあまりできていないと解答したスタッフの数が多いの気になります。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の取り組み状況が外部の方にも分かりやすくなるように自己評価前の事前研修も年間研修計画に入れてお示ししたり、研修風景の写真も記録として残し、運営推進会議の場で報告する。 事業所として地域に貢献できる事として、地域向けの認知症サポーター養成講座を計画する。 認知症オレンジカフェにも地域の方々に参加いただけるように回覧板を活用して発信していく。 本人を支えるための家族・介護者との関係づくりの配慮については事業所全体としてはできているので各々の役割を理解し、チームケアで支えているという認識を深めてもらうために事前研修でも説明していく。

<p>B. 事業所の しつらえ・環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内外の環境整備は役割分担して引き続き継続して行う。 ・基本的な感染予防対策の継続実施（うがい手洗い）（換気・消毒）感染状況に応じて柔軟に対応していく。 ・事業所の質を上げるための定期的な社内研修の計画と実施を行う。 ・中重度の利用者も増えてきており、職員の腰への負担を軽減するためと安全に入浴して頂くための環境整備として小規模・デイサービス共有の風呂にリフトキャリーが導入された。今後、有料老人ホームの風呂にも入浴リフトの導入を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時の清掃、大掃除の時は掃除の場所を分担して行い施設内外の環境整備を実施した。 ・基本的な感染予防対策に加え、ノロウイルスなどに有効な次亜塩素酸での消毒も定時で（お茶・毎食時）実施した。 ・事業所の年間研修計画に沿って毎月の全体ミーティングで研修を実施した。 ・リフトキャリーやスリングタイプの入浴リフトを利用者の状態に合わせて使い分けて、安全かつ職員の腰への負担軽減をしながら入浴介助を実施した 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい雰囲気だと思います。消毒等の感染対策もされていると思います。 ・夜間職員玄関から出てしまった利用者がいたという件について施錠方法確認について対策を実行して下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内外の環境整備は役割分担して引き続き継続して行う。 ・基本的な感染予防対策も継続して行う（うがい手洗い）（換気・消毒）感染状況に応じて柔軟に対応していく。 ・施設内の出入り口の数と錠の状態を全体で把握して開錠・施錠担当が定時で確認を行う。利用者には今まで通り、できるだけ自由に生活して頂けるように安全にも配慮していく。
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で計画されている行事への参加。（環境美化運動・ふれあいサロン・防災訓練等） ・サンクス主催、地域向けの行事の計画と実施を行う。（朝市など計画） ・広報誌「サンクスだより年/2回」の発行継続と回覧板の活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の環境美化運動には可能な限り参加することができた。 ・富田のふれあいサロンには利用者と一緒に毎回参加させて頂き、地域との関りが途切れないように取り組む事ができた。 ・10月にサンサン祭りを開催し、たくさんの地域の方々に来所していただく事ができた。 ・回覧板を活用してサンクスの活動内容を発信する事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度はサンサン祭りの開催やオレンジカフェの活用をしながら地域との関りを持つ機会や、蕎麦屋さんやサロンの活用によるつながり支援がされていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンクス主催、地域向けの行事の開催。（サンサン祭り・さいわいカフェマルシェ） ・認知症サポーター養成講座（地域向け）や認知症オレンジカフェにも地域の方々に参加して頂けるように計画していく。 ・引き続き地域行事にも積極的に参加していく。
<p>D. 地域に出向いて 本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域に出向いて収集できた情報は一人ひとりの軒下マップに記入し、本人の暮らしを支える資源として活用する。 ・独居高齢者の非常災害時にも役立てられるようにする。 （緊急時、職員が到着する前に隣近所の方には進入口など知らせておく必要があるため、担当者会議の場で本人・家族の同意のもと 	<ul style="list-style-type: none"> ・収集できた情報は一人一人の軒下マップに記入してアセスメントに繋がっているケースもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップというワードが散見されるが、どんなものか分かると思う。 ・軒下マップは地域と本人とのつながりが可視化されて分かりやすいので活用してもらいたい。 ・地域のサロンやオレンジカフェ等を行い地域とのネットワーク作り力を入れていました。 ・地域での暮らしの支援について 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の場で、軒下マップの様式の説明と事例を紹介する。 ・利用者との日常の会話や送迎時、ご家族などから知り得た新たな情報を全体ミーティングの場で共有する、間接的とはなるが地域での暮らしの支援を知りその場で軒下マップにも記入しアセスメントに繋がっていく。活用できそうな資源につ

	情報共有を行う)		自己評価でありできていない。ほとんどできていないスタッフが多い。 ・軒下マップの有効活用ができる と良い。	いての具体的な話し合いも行い、地域での暮らしをチーム全体で支えていく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の議題を年間で計画し、話し合いたい内容を事前説明して進めていく。 ・認知症サポーター養成講座の開催。第一回目は包括主催でスタート。今後、事業所と地域のかかわり(C)の項目に移行し、地域向けの集まりにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議題の年間計画と事前に説明しながら進めていく事は実践できなかったが、認知症サポーター養成講座の開催など、運営推進会議を活かした取り組みができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員さんや区長さんから気になる地域の方の相談事案をどうするのか、安心につながるか、検討する場面はあまりないので、心配な方は事業所へ相談というより、どんな対策があるか地域ケアシステムの役割ができると有難いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の心配な方についての対策を一度事業所で話し合い、運営推進会議の場で共有する。 ・議題については年間計画を立てて事前にお知らせしていく(再掲) ・認知症サポーター養成講座は継続。包括・市担当者の方々と話し合っ て計画的に進める。その中に地域に向けての認知症サポーター養成講座を計画、実行し、事業所と地域のかかわり(C)の項目に定着させていく。
F. 事業所の 防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域合同の防災訓練の計画と実施。施設では気温や天候などを想定した訓練を計画する。 ・感染症発生時における非常災害時業務継続計画(BCP)の計画にある段階別の項目は実践できているが、毎回計画通りに対応できるように繰り返しシミュレーションと訓練を実施する。 ・日常的に「今日の役割」を決める。自然災害はいつ起こるか分からないので、管理者不在の時でも誰でも対応できるようにその日の役割を決める。 ・毎月1回全体ミーティングの時間に防災会議を行う。(人命保護最優先・避難経路の確保・緊急連絡先の確認・備蓄品確認など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の改善計画は実行するための話し合いや計画が全体的に不十分だったので、あまり実行できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他サービスが一緒の場所にある利点を活用した災害対応が地域にアピールできるといいと思う。 ・様々な災害を想定しシミュレーション訓練を実施している。 ・いつ起きるか分からないので日頃の危機管理が大切だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問時のBCPができていないのでサクスホームヘルプステーションのBCPを参考にして作成する。 ・地域合同の防災訓練の計画と実施。<u>(7月と11月の運営推進会議に絡めて実施したいと考えています)</u>施設では気温や天候などを想定した訓練を計画する。(再掲) ・日常的に「今日の役割」を決める。自然災害はいつ起こるか分からないので、管理者不在の時でも誰でも対応できるようにその日の役割を決める。(再掲) ・3ヶ月に1回、防災会議を行う。(内容は施設内での担当者の役割やBCPの概要・必要性について職員全体に周知、机上訓練でシミュレーションをする。)

